

製品名: Smad2/3 (リン酸化 Thr8) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21074**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	ホスホ
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:48kD;Observed MW:62kD

抗原情報

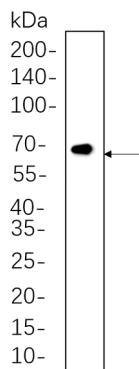
遺伝子名	SMAD2/SMAD3
別名	SMAD2;MADH2;MADR2;Mothers against decapentaplegic homolog 2;MAD homolog 2;Mothers against DPP homolog 2;JV18-1;Mad-related protein 2;hMAD-2;SMAD family member 2;SMAD 2;Smad2;hSMAD2;SMAD3;MADH3;Mothers against decapentaplegic
遺伝子 ID	4087;4088
SwissProt ID	Q15796;P84022
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

背景

細胞局在: 細胞質。核。TGF- β 非存在下では細胞質および核に局在する。TGF- β 刺激により、SMAD4 と複合体を形成して核へ移行する (PubMed:9865696, PubMed:21145499) 。ホスファターゼ PPM1A による脱リン酸化により SMAD2/SMAD4 複合体から遊離し、RANBP1 との相互作用により核外へ排出される (PubMed:16751101, PubMed:19289081) 。胚発生初期には主に核に局在し、胚盤胞期および上胚葉期には細胞質への発現が顕著になる (相同性による) 。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ショウジョウバエ遺伝子「mothers against decapentaplegic」 (Mad) および線虫遺伝子 Sma の遺伝子産物に類似したタンパク質ファミリーである SMAD に属します。SMAD タンパク質は、複数のシグナル伝達経路を媒介するシグナル伝達因子および転写調節因子です。このタンパク質は、トランスフォーミング成長因子 (TGF) - β のシグナルを媒介し、細胞増殖、アポトーシス、分化など、複数の細胞プロセスを制御します。このタンパク質は、SMAD アンカー受容体活性化タンパク質 (SARA) との相互作用を介して TGF- β 受容体にリクルートされます。TGF- β シグナルに応答して、このタンパク質は TGF- β 受容体によってリン酸化されます。このリン酸化は、このタンパク質と SARA の解離と、ファミリーメンバーである SMAD4 との結合を誘導します。SMAD4 との結合は、転座に重要です。

研究分野

画像データ



NIH-3T3 全細胞ライセートを 10% SDS-PAGE で分離し、メンブレンを Smad2/3 (リン酸化 Thr8) ウサギモノクローナル抗体 (1:1000) でプロットした。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG (H + L) 抗体を用いた。